

今、この人に **いんたびゅう** Interview

高橋 カーリー さん

外国人も日本人も、いろんな人がいるという
環境に慣れ親しむことが、
多文化共生につながるんだと思います。



■来日されたきっかけは何だったのでしょうか？

大学では社会福祉を学んでいました。オーストラリアでの就職も考えていましたが、1年間の日本での英会話講師の募集があったことから、後悔したくないと思い、日本での仕事を選択し大学卒業と同時に日本に来ました。来日後の職場が滋賀県で、当時は京都から通っていました。

■日本に興味を持たれたきっかけは何だったのですか？

小さい時にテレビで日本のドラマやアニメを見たのがきっかけです。6歳の時に一番好きだったドラマが「西遊記」で、アニメでは「鉄腕アトム」や「ジャングル大帝」をよく見ていて、こうした日本のカルチャーに興味を持っていました。その後、ハイスクールではたまたま第2言語の先生が日本語の先生になったことで、日本語にも興味を持つようになりました。

■実際に来日されどんな印象を持ちましたか？

日本のイメージは忍者や芸者といったものですが、来日してみると先進的なところも多く、また神社仏閣など古い伝統を守るところもあり、面白い国だと思いました。困ったのはやはり言葉です。自身の日本語能力のこともあり、日本人との付き合いは英語が話せる仕事関係の人がほとんどでしたが、みんな明るく優しいですね。コミュニケーションという意味では、オーストラリアでは街で通じなかった知らない人にも「服かわいいね！」などと声をかけますが、日本人は初対面の人には声をかけないのだと、そのあたりはオーストラリアと違ってとまどいました。

■日本で暮らしていく上で不安もあったかと思いますが、結婚されて今は滋賀にお住まいですが、生活面のアドバイスは周囲からありましたか？

1年間の英会話講師の仕事を経て、京都での初めての海外生活が楽しく、日本での滞在をもう1年延長することに決めました。この滞在中に夫と出会い、夫の仕事の関係で野洲で暮らすことになりました。その後は子ども生まれ、英会話

講師のパートを続けながら現在に至ります。子どもを介して同世代の日本人との交流はできましたが、深い友達関係には至りませんでした。ただ、野洲市国際協会での活動を通して、いろんな国の人と出会えたことは励みになりましたね。

■現在は、インターナショナルキンダーガーデンで就学前の子どもに英語を教えておられるということですが、この仕事を通して何か発見などありましたか？

小さい頃から私たちのような外国人を身近に感じてもらい、文法や発音を意識せずに話すことで、英会話を楽しめる環境が大切だと思いました。日本人が英会話を不得意とするのは、話す時に文法や発音に厳しいからだと思います。それは日本の英語教育の問題かもしれません。英語はどここの国でも話しているので、いろんなアクセントがあります。どのようなアクセントでも恥ずかしながらコミュニケーションをとるようにして、日本のことをもっと外国人に伝えてもらえるといいと思います。今は毎日子どもの成長を近くで見られることもとても楽しいですね。

■ところで、カーリーさんはFacebookで「Mottainai Japan」を運営されていますが、きっかけは何だったのでしょうか？

36歳になった時に、失敗してもOK!というルールで「36の新しいことをする!」という目標を立てました。毎日がルーティン化し、1年が短く感じるようになっていたので、新しいことに挑戦することで、日常に変化を感じたかったんです。

スキューバダイビングをする、千羽鶴を折るなどの新しいチャレンジの中の1つに、Facebook内でいらなくなったものを欲しい人にあげる「Mottainai Japan」の活動の立ち上げがありました。「36」の中でも、このチャレンジは人のために自分ができることなので、一番誇りに思っています。環境にも良いし、たくさんの方の助けにもなり、同じようなサイトを作るグルー

▲娘のリリーさん(左)に翻訳を務めていただきました。リリーさんは小・中学校を日本で過ごし、高校はオーストラリアに留学。現在は京都の大学に通われています。

▲「初めて来日した時に驚いたことは、電車に乗る時にみんなが並んで待っていることでした。ギャルのファッションや、プールでホイッスルがなったとみんなラジオ体操を始めることにも驚きましたね(笑)滋賀は都会ではないけれど田舎すぎることもなく、京都や大阪に近くて利便性がよく、子どもを育てるのに住みやすいところですね」

●プロフィール●

高橋 カーリーさん／

オーストラリア マンジュラ出身 守山市在住
インターナショナルキンダーガーデン 勤務
2001年に来日、京都で暮らしながら滋賀で英会話講師を勤める。その後結婚し野洲に転居。パートナーの転勤のため宮崎県で7年間過ごし、再び滋賀に戻り現在に至る。2024年からインターナショナルキンダーガーデンで勤務し、子どもの英会話教育に携わる。10年前から約39,000人のメンバーが不用品を譲り合うFacebookの「Mottainai Japan」を運営する。



◀カーリーさんが運営するFacebookの「Mottainai Japan」。国内在住であれば外国人も日本人も誰でも参加できる

ブも増えました。こうした影響を与えられたことも嬉しいですね。オンライン上の活動だからこそ、外国人も日本人も、この取組を通じていろんな人に出会うことができました。まさにこれが多文化共生で、今も楽しく続けています。

■最後にカーリーさんの今後の夢や目標を教えてください。

24年前に来日したことを考えると人生の半分を日本で暮らしていることになりました。今、故郷のオーストラリアを見たら印象が違うかもしれません。子どもも大きくなったので、一度故郷に戻って、自分がどんな印象を持つのかを体験したいですね。そこでもっと歴史の深い他の国に行きたいと思うかもしれないし、やはり日本がいいと思うかもしれない。もしどこか他の国に行くことになったら、語学学校に行ってその国の言葉を学びたいです。そこからまたスタートでチャレンジですね。